

## 第3回バス利用促進座談会-バス利用増加へ向けた取り組み-

### [1] 企画概要

**会場**：沖縄県庁 11 階第 1・2 会議室

**日時**：平成 30 年 1 月 30 日（木）14:00～17:00（3 時間）

**共催**：沖縄県（企画部交通政策課）/わった～バス党

**運営**：株式会社アカネクリエーション、株式会社エマエンタープライズ  
株式会社がちゆん（企画、ファシリテーター）

**参加者**：沖縄県高等学校 PTA 連合会、オリブ山病院、バス事業所 4 社（琉球バス、沖縄バス、那覇バス、東陽バス）、沖縄県バス協会、那覇商工会議所青年部（YEG）  
沖縄 IC カード(株)、沖縄県教育委員会、沖縄県交通政策課 合計 22 名

**進行役**：メイン進行 1 名、各テーブルに進行補助 3 名

**目的**：第 2 回座談会後に実施した取り組みの振り返りと次年度へ向けた取り組みについて話し合う。

### [2] タイムスケジュール

時間	タイトル	内容
14:00	はじめに	前回までの振り返り＋ルール確認
14:10	ウォーミングアップ	テーマを選んでエピソードを話すワーク 1. 私の初〇〇 2. 2018 年の抱負 3. 新年会・忘年会での出来事 4. 初詣でのお願い事
14:30	グループ別企画振り返り①	各グループでの進行 ・A/C グループは振り返り ・B グループは企画会議
15:30	休憩	
15:40	グループ別企画の振り返り②	各グループでの進行
16:10	次年度へ向けて（全体共有）	今までの座談会（計 3 回）の振り返り
16:50	今後のスケジュールの確認＋まとめ	

### [3] プログラム内容

#### <ウォーミングアップ>

**目的**：話し合い（振り返り）に向けて頭作りを行う。

**内容**：テーマを選んで、エピソードを話すというワークを行った。

①私の初〇〇 ②2018 年の抱負 ③新年会・忘年会での出来事 ④初詣でのお願い事

**結果**：各グループでそれぞれのエピソードについて話し合ったことで、振り返りや企画会議などメインの話し合いへ入る準備ができた。

## <グループ別企画の振り返り①②>

- 目的：** A 高校生によるバス利用に関する意見交換会(以下「高校生座談会」)の振り返り  
 B イベント(わった一那覇めしグランプリ)と公共交通機関のタイアップ企画会議  
 C 「バスアドバイザー講習会」を振り返り今後の展開を考える

**内容：**

	内容
	<p>振り返りの手法「KPT (K=Keep、P=Problem、T=Try)」を使い、意見をまとめた。KEEP(継続する事)として「両替の仕方がわからない」「荷物置き場が欲しい」など、高校生ならではの意見を聞くことができたなどが挙げられた一方、Problem(改善点)では、「沖縄県としてはわった一バス党を通じてバス利用をPRしていたつもりだったが、高校生に伝わっていない」ことなどが挙げられ、次年度へつながる意見が多数出た。</p> <p>今後の展開として、高校生意見交換会で出た意見を実現できる体制を作り、実現する方向性に決まった。例えば、「バスの事を知らない高校生が多い」という高校生の意見に基づき、「高校生のバスアドバイザー制度を設ける」「コンテストを行う」といった実現性の高いアイデアが出された。各意見の詳細を以下に記述する。</p>
A	<p>[Keep]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用方法がわかればバスに乗ると言う意見が出た</li> <li>・高校生がバスについて考えた</li> <li>・バスの利用促進を高校生に呼びかけることは効果的と言う確信を持てた</li> <li>・事業者と高校生の対話ができる</li> <li>・高校生に共通している意見がわかった</li> </ul> <p>[Problem]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスを降車する際の「お釣り」やOKICAの「チャージ」を高校生が大変だと感じていることが分かった</li> <li>・細かい視点や乗車経験があるからこそわかる意見が出た</li> </ul> <p>[Try]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス車内以外にOKICAのチャージ機を増やす</li> <li>・高校生がバスに乗りやすい工夫(例えば、バスの利用方法をYouTubeに投稿する、学内で講習会を行う等)をする</li> <li>・高校にもバス通学促進の意識を持ってもらう</li> <li>・高校生からのアイデア等の試行はまず1つの路線に絞って行う</li> <li>・高校生にバスの乗り方講座を行う</li> <li>・小学校で「バス学」の講習を行う</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスに乗るときにゆとりを持って出発する際の「ゆとりの時間」の計測をする</li> </ul> <p>[次年度の展開]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生意見交換会によって、バスの利用促進では高校生が乗ることで大きな効果があるということがわかったので、高校生が出してくれた意見を実現させたい</li> <li>・バス事業者は、地域に介入し提案から実行まで行いたい</li> <li>・座談会で高校生の意見をバス事業者に提案した       <ul style="list-style-type: none"> <li>→バス事業者が意見を実現できる体制作りと、実現に向けた取り組みを行う</li> <li>→高校生が取り組みを知る</li> <li>→意見交換会参加高校生は、社会変革体験をし、高校生のバス利用も促進する</li> </ul> </li> </ul> <p>[具体案]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高額紙幣でもお釣りが出る仕組みを作り、お釣り箱に説明文と高校生の提案である事を明記する</li> <li>・高校生を対象としたバスアドバイザー制度を作る(オリブ山病院のバスアドバイザーを参考にする)</li> <li>・合格発表でその高校に特化したバス情報を提示する(情報を子どもだけでなく保護者にも届ける)</li> <li>・バス利用促進アイデアを募集するなど、バスに関するコンテストを開催する(コストにこだわらなければ出来る)</li> <li>・那覇商業高校での取り組み(学校名を検索すると、バス停名が出て来る)を取り込む       <ul style="list-style-type: none"> <li>→回答:「通学バスなび」という名称のサイトができています (URL : <a href="http://shimatate.net/bus/">http://shimatate.net/bus/</a>)</li> </ul> </li> <li>・高校生にバスの乗り方講習を行い、フィードバックを受けながら改善していく</li> <li>・高校生は乗り方講習を受け、バス事業者は知っているけれど高校生は知らなかった情報をYouTubeでプレゼンテーションする</li> <li>・主催はバス協会、協力は各バス会社</li> <li>・高校生意見交換会に参加した高校生に協力依頼を行う</li> </ul>
B	<p>進捗の確認と本日話し合う必要がある議題の2つに分けて話し合いを進めていった。</p> <p><b>【企画概要】</b></p> <p>「わった～那覇めしグランプリ」の開催に合わせて、イベント会場までの主要なバス路線でのイベント告知やバス利用での特典があることの案内を行い、バス利用者を増やす。</p> <p><b>【進捗】</b></p> <p>＜バス・モノレールの対応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス停での運行案内(イベント当日)</li> <li>・バス車内でのポスター掲示(豊見城1周線)</li> <li>・モノレール駅でのポスター掲示</li> <li>・わったーバス党のHP、Facebook、ラジオでのイベント案内</li> <li>・最寄駅、最寄バス停に運行案内文を掲示する(10箇所)</li> <li>・運行回数は合計226回(往復)で掲示を行う</li> </ul>

- ・10日～1週間前から案内を開始する

<わったー那覇めし対応>

- ・ポスターデザインにバスのデザインを入れ込む
- ・ブースでのOKICAの案内を行う（のぼり、パンフレット、バスMAP配布）
- ・会場アナウンス
- ・受付にサインボード等の設置

[検討] ブースでのOKICA販売について

※ブース規模はYEGの提供できる範囲で行う

**【議題】**

<乗車の証明の取り方>

- ・OKICAを使用して乗車履歴を確認できるアプリ「OKICA♡WARI（参照：<http://info.okica.jp/okicashop>）」を活用してOKICAで公共交通を利用した来場者の乗車を確認する。
- ・基本的にはOKICA利用の方のみを対象とし、裏オペレーションとして現金で公共交通を利用した人は「路線番号・駅名・料金」を申告すると特典を受けられることにする。

※ブースでOKICAを読み込むための端末を用意する

※OKICAは定期券の方も対象となる

<インセンティブの内容>

- ・実現しやすさ、運用のしやすさとして「先着順」で行う
- ・飲み物の提供を行う

[検討] OKICAのポイントを全員に付与する（沖縄ICカード(株)が対応）

[検討] フリー乗車券を数枚特典として渡すことができる（枚数を確認）

[検討] 優待券抽選チケット配布を行う（枚数を確認）

<当日の運用方法>

- ・運用についてはICカード(株)とバス事業者で行う
  - ・先着で行い、商品は選んでもらう形式にする
  - ・インセンティブ用物品はYEGで準備し、運用をICカード(株)とバス事業者で行う
- [検討] 運用に際して派遣する人数を確認する

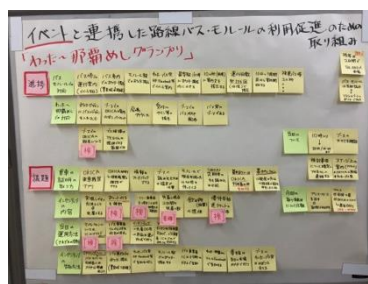
<インセンティブの告知方法>

- ・チラシ、ポスターをバス車内で掲示する
- ・わったーバス党のHP、Facebook、TV、ラジオで告知する
- ・モノレール駅にポスターを掲示する
- ・バス事業者、ICカード(株)のHPで告知する
- ・わったー那覇めしグランプリのFacebookで告知する
- ・当日、会場にのぼりやサインを設置し告知する

	<p>&lt;当日について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10時入り、20:00 / 19:00 まで行う</li> <li>・ステージ上で案内を行う</li> </ul> <p>&lt;今回の取り組みについての広報&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレスリリースを出す</li> <li>・2月末～3月初旬に連名でプレスリリースを行う</li> </ul>
C	<p>5W1H でバスアドバイザー講習について前提情報をグループ内で共有した。その後、YWT (やったこと、わかったこと、次やること)のフレームワークを用い、1月23日に実施したバスアドバイザー講習会について振り返りを行った。バスアドバイザー講習会に関しては、オリブ山病院の職員さんから肯定的な発言が多く、今後とも続けてほしいという意見が出た。また、バス協会、バス事業者各社は、バスの利用における課題や感想をオリブ山病院の職員さんから共有してもらうことで改善点や今後のバス協会、バス会社の方向性が明確になった。</p> <p>今後の展開を話し合い、バスアドバイザー講習会を今後も続けていくという話になった。</p> <p>バス事業所より、今回のバスアドバイザー講習会の実現方法としては、バス会社が共同出資を行い、バス協会を利用者からの連絡窓口と、告知・方法担当、バスアドバイザーの講師をしてもらうという案が出た。しかし、バス協会やバス会社の負担を考え、バーチャル講習会(動画)の作成や、講師を立てずに「勉強会」という形で課題を抱えている企業や施設の方とバス会社とバス協会の方を含めて、バス利用における質疑に答え、バス利用に関する意見を出し合う場を作るという案が出た。</p>

**結果：**各グループの進行役のもと、建設的な意見が出て主体的に参加者が話し合う場が進んでいた。次年度につながる意見が出された。例えば、PRの課題、インセンティブを先着制にする、窓口の統一といった実現性が高く具体的な意見が出され、振り返ることができた。

[模造紙]



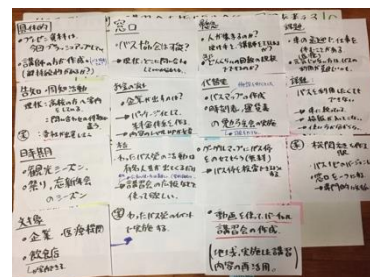
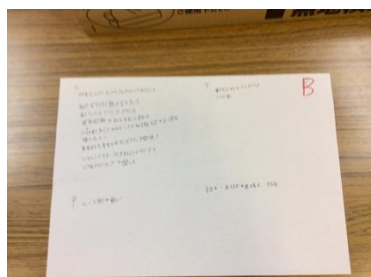
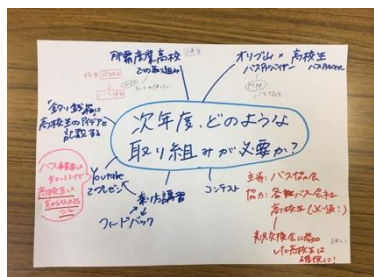
<次年度へ向けて(意見交換会)>

**目的：**これまでのバス座談会(計3回)の振り返り

**内容：**グループ毎ではなく、グループをシャッフルしこれまでのバス座談会(計3回)の振り返りを行った。話し合いでは参加者の声として「運賃以外の建設的な話し合いができた」「普段利用していて気づいたことや言いたいことを言えた」「バスとのタイアップができた」「横の広がりを持つことができた」「県議会議員など力のある人にも参加して欲しい」といった意見が出た。またバス事業者からは「ハード面ではなく、ソフト面で工夫をしていくという考え方が良かった」「参加者の方々が想いを持って参加していただいた」等の意見が出た。また今回の取り組みを発展させ、次回に繋げるための意見もあった。

**結果：**これまでのバス座談会を通してバス事業者としてもっと取り組む必要があるという意見や利用者としてバス事業者の事情を知ることができた等、相互理解やバス事業者の内的変容が見られた。また次年度へ向けた意見が多く、次年度の取り組みなどについてイメージを持つことができた。

[振り返りの内容]



## [4] 成果

### グループA「高校生意見交換会」

本座談会では、高校生意見交換会の振り返りと、今後の展開について話し合った。

高校生意見交換会では、高校生のアイデアを直接バス事業者に提案することができた。高校生にとってはバスに関して知る機会になっただけでなく、社会変革体験の第一歩を経験する事ができた。バス事業者にとっては、高校生の視点から見える新たな課題の発見に繋がった。これが高校生意見交換会の成果である。

今後の展開として、高校生意見交換会に参加した高校生が沖縄の高校生のバス利用の促進に繋がりに取り組みに関わり、社会変革を経験することが必要だという話し合いになった。そのために、高校生が出した意見を実現する体制を整え、次にその意見を実現し、高校生に知ってもらおう、という流れが決定した。

具体的な案として、オリブ山病院で実施したバスアドバイザー講習会を見習い、高校生を対象としたバスアドバイザー制度を設ける案や、高校の合格発表の際にその高校に特化したバス情報を配布する案などが出た。いずれもバス協会が主体となり、各バス事業者が取り組みに協力するなどの運営体制が良いのではという意見が出た。高校生意見交換会に参加した高校生を今後の他の取り組みにも参加してもらおう方向性に決定した。以上が、今回の成果である。

### グループB「イベントと公共交通機関のタイアップ企画」

本座談会では、「わたた一那覇めしグランプリ」と公共交通機関のタイアップ企画の実現へ向けて話し合いを行った。話し合いの結果として「①乗車証明の取り方」「②インセンティブの取り組み方」「③運用における役割」の3つが決まったことが成果である。

特に③の運用における役割としては、那覇商工会議所青年部 (YEG) の方々が全てを行うのではなく、バス事業者とICカード株式会社が協力してブースの運用を行うということが決まり、結果として一方が過剰な負担を負うことのない形で運用することとなった。

また、今回はICカード株式会社の方から積極的にインセンティブや運用方法についての意見が出ており、具体的な協働の方向性と今後の展開イメージを描くことができた。実施は2月後半からイベント当日になるが、今回の取り組みをモデルケースとして県内の他のイベントにも応用で

きるようにしていくという話になった。

### グループC「バスアドバイザー講習」

本座談会では、バス利用促進に向けた具体的な行動として実施した「バスアドバイザー講習会」の振り返りと、今後の展開について話し合った。バスアドバイザー講習会に関しては、オリブ山病院で実施し、その講習会に参加した職員が他の職員に講習で学んだ内容を共有し、オリブ山病院の利用者がバスを利用してオリブ山病院に来院する際の案内に活かしているという話が出た。講習内容に関してオリブ山病院の職員の満足度が高いということが、実施したバスアドバイザー講習会の成果である。

バスアドバイザー講習会を今後も継続していくかどうかについては、バス事業者、バス協会、沖縄県交通政策課の方も含め、グループ内では実施していきたいという話になった。またバスアドバイザー講習を一施設のみに行うのではなく、周辺施設で実施することや、バスの利用頻度が多い場所に集中的に講習会を実施するという話になった。しかし、実際にこの取り組みを運用するにあたって、資金面をどうするか、講師を誰（バス協会かバス事業者か）にするか、誰がどこまで協力できるか等いくつかの課題が見つかった。

課題の解決策として、バス事業所から来年度、継続する可能性が場合にはバス会社が資金を負担し、バス協会が利用者からの連絡窓口と、バスアドバイザー講習の告知・営業、講師を行ってもらおうという案が出た。また、意見交換会の際に、企業の方のバスアドバイザー講習会のニーズがあることが分かったため、バスアドバイザー講習をパッケージ化し、料金体系を整え、販売してはどうかという話になった。

### [5] 総括（全3回の座談会を経て）

一昨年の第1回座談会から数えて、今回で合計6回の座談会を実施してきた。初年度の座談会では「バス利用者」と「バス事業者」の双方の相互理解を促すことができた。

今年度は相互理解が進んでいる前提で、実際にバス利用を促進する取り組みの企画を行い、実行するというところを行ってきた。結果として「高校生によるバス利用に関する意見交換会」「バスアドバイザー講習会」「イベントと公共交通期間のタイアップ」という3つが企画され、実行に繋がった。

今年度の座談会の成果としては、「バス事業者の内的変容」があったことである。これまでは通常業務に加えて新しく取り組むということに抵抗があり、昨年度の座談会では「できない」という声が多かったが、今回は実際に「実行可能な内容」を模索し、実行に移したことで、バス事業者の中で「実行可能な範囲（ソフト面の改善）」が分かり、新しい取り組みへの抵抗感が大幅に下がっている。

また、バスアドバイザー講習会での成功体験（オリブ山病院からの“良かった”という評価）や高校生から実際に意見を聞いたという実体験、そして実際にイベントと協働へ向けて擦り合わせていくという経験を通して、「実行したい、継続したい」という声がバス事業者から出てきた。バス利用者からも同様に、バス事業者が行動を起こしたことへの評価や今後も継続して協働したいという声も生まれ、「協働するための土台」を作ることができたと言える。

今後はさらに促進へ繋げるために取り組みの質を高めると同時に、バス事業者が自らで今回のような取り組みを企画・実行できるよう、サポートが必要である。

[第3回バス利用促進座談会の様子]

